

Libro de Alexandre II

Translated by OTA Tsuyomasa

Abstract

The Libro de Alexandre is a 10,700 line epic poem which was supposedly written in the first third of the thirteenth century. This poem is not an ordinary biography of Alexander the Great because his life story is interrupted by many diverse events, such as the Trojan war of around 1200 B.C. While Alexander the Great lived in the fourth century B.C., this poem was written in the thirteenth century AD. The author is unknown, but may be a cleric. However, the mix of ages that can be seen throughout the poem is one of its most remarkable characteristics.

The work is written in the erudite form of 'cuaderna vía' (four-fold way), the style of which has been called 'mester de clerecía' (The art of scholars), as compared with 'mester de juglaría' (The art of minstrels).

This time translation is made between strophes 196 and 399.

アレクサンダーの書Ⅱ

太田 強 正 訳

アレクサンダーの書は13世紀の最初の約30年の間に書かれたと推測される10700行からなる大叙事詩である。

これは33歳で早世したアレクサンダー大王の伝記であるが、普通の伝記とは異なり、大王が活躍した紀元前4世紀、トロヤ戦争が起こったと言われる紀元前約1200年、そしてこの叙事詩が書かれた紀元後13世紀の話が混然として描かれている。

作者は無名の聖職者であろうと言われているが、Gautier de ChatillonのAlexandreisを底本として、その他の伝記、伝承を基にこの叙事詩を書いたようである。

作品はメステル・デ・クレレシーア（mester de clerecía）と呼ばれるもので、中世スペインの主に聖職者による教養階級の文学の流派のものである。これは文字の読み書きのできない吟遊詩人（juglares）によるメステル・デ・フグラリーア（mester de juglaría）と対をなすものである。

形式はクアデルナ・ビーア（cuaderna vía）と呼ばれる1行14音節同音韻4行詩である。

今回は第196連から第399連までを掲載する。

訳は言葉が違うので韻を踏ませることはできなかったが各行ごとに付けた。そのため日本語として通るように原文にない接続詞などを補わなけれ

ばならない箇所があった。

人名・地名などの固有名詞は原則、原文に従いスペイン語読みとし、日本で普通用いられているものについてはそれに従った。

翻訳に当たっては現代スペイン語訳の他、英訳を参照した。また部分訳ではあるが日本語訳も参考にした。

- 196 このコリントは非常に気高い都市で
 聖パウロが後に真理に変えました¹⁹⁾
 他のすべての都市に対して大きな権限を持っており
 ずっと昔からすべての都市の頭でした
- 197 ギリシャで王を即位させる時には
 他ならぬそこで行っていたのですが
 王子はそれを破りたくなかったので
 そこで騎士になり、そこで戴冠することにしました
- 198 アレクサンダー王が戴冠すると
 彼を怒らせたこのある者は皆恐れを抱いていました
 彼の家庭教師であったアリストテレスはとても満足して
 いました
 自分の教え子にとっても大きな喜びを感じていたからです
- 199 王国全土に御触れが出されました
 あるものは脅しで、あるものは褒美の約束でした
 三ヶ月で皆集まるようにと
 歩兵も騎士も皆しっかり準備をして

- 200 人々がこのように急な御触れを耳にした時
代官も判事も待とうとはしませんでした
騎士も歩兵もやって来ました
ローマでもこんなに急いで贖宥²⁰⁾を受けに行きません
- 201 宮廷は王が命じたようにいっぱいになりました
皆取るものもとりにあえずやって来たようでした
王は彼らを見ると喜びを顔に表しました
誰にでもそれが分かったでしょう、いつもより明るかったの
ですから
- 202 老人たちは皆王の近くに座っていました
黄ばんだ髭の老人から白髪の人まで
もっとも若い少年たちはもっと離れた所にいました
中年の者たちは間を占めていました
- 203 人々は多く、歩兵も大変な人数でした
彼らは陣営には収まらず、離れた所にいました
隊列が非常に整然と整えられていたので
まるで彼らがいつもそのために訓練されていたかのよう
でした
- 204 年を取り、衰えた師アリストテレスは
震える手でマントを着て
本を読みながら王の近くに座っていました
こんな立派な宮殿を誰も見たことがありませんでした

- 205 王はあたりを見回しながら真ん中に座っていて
彼らを見れば見るほど満足していききました
皆は耳をそばだてて待っていました
黙している王が何を言い出すかと
- 206 時が来たと見ると、王は話し始めました
《貴族たちよ、少し話を聞いてくれ
私はいつも君たちに非常に感謝しなければならない
なぜならわたしの布告にこんなにも従ってくれたのだから
- 207 君たちは父親がどのような人生を送って死んだのか知っ
ている
彼らは自分たちの祖父もそうだったと分かっている
彼らは非常に苦悩の中で生きて、そこから解放されること
はなかった
彼らは自分たちの味わった苦悩をそのまま私たちに残した
- 208 彼らは義務としてペルシャの王に仕えなければならなかった
命じられれば、何でも果たさなければならなかったし
毎年皆身代金を支払わなければならなかった
私が持っている不満については口で言い表すことはできない
- 209 私たち孫はその網から抜け出せない
彼らが生きた所で私たちも生きたいなら
しかしもし君たちがこれを一度に断ち切りたいのなら
私はダリウス王を君たちに許しを請いに来させよう》

- 210 こう言うと王は黙り、会衆が答えました
《王様、私たちはあなたの命令を果たす用意ができています
あなたが決して望まない所にも私たちは喜んで行って
わたしたちの命と勝ち取ったものすべてをさらしましょう》
- 211 アテネはこのことすべてに反対し
王に反乱を起こし、従おうとしませんでした
このことに人々を巻き込んだ指導者デモステネスは
もう少しで厳しく罰せられるところでした
- 212 王は時を置くことも、術策を弄することもしませんでした
すぐに彼の素晴らしい軍を動かすよう命じました
とてつもない山が動いているようでした
王はすでに怒りを解き放ち始めようとしていました
- 213 (アテネの) 市会は軍旗を見ると後悔して
自分たちに助言したデモステネスを非難し
もう少しで彼にひどい罰を下すところでした
しかしちょっとはましな取り決めをしました
- 214 人々は王の下へ仲裁者を送りました
彼らは過ちを認め王の手に落ちたのでした
王が彼らの虚しい行為を気に留めないように願いました
なぜなら必ずこのように罰を受けるのですから
- 215 王は非常にへり下った彼らを見ると

まったく残酷さを見せようとはしませんでした
市会を許し、町の包囲を解きました
人々は言いました：《こんなに情け深い王様、万歳》

- 216 ダリウス王に対する過度の信頼から、ギリシャの諸都市は
自分たちの王に全く敬意を払おうとしませんでした
そこでアレクサンダーはテーベに敵意を抱いていました
というのは、父王が彼らと諍いを起こしたことがあるからです
- 217 しかし王はそれに我慢がなりませんでした
馬でテーベに向い、そこを包囲し
直ちに激しく攻め始めました
中にいる者たち、そしてすべてが安閑としていられませんでした
- 218 城壁は鎧を着けた男たちでいっぱいでした
城門は阻まれ、小門は閉じられていました
しかしそれでも彼らはすくんでいました
というのは、道理を持たない者はそんなに勇敢ではないからです
- 219 良き王は攻める兵士たちに命令を下していました
《奴らを倒せ、裏切り者を恐れるな
奴らはお前たちの奴隷だ、我々が主人なのだ
子供も大人も逃すな》
- 220すでにテーベは窮地に追い込まれていました
アレクサンダー王が彼らを非常に締め上げたからです

彼らに恨みによるものだとはっきり示しました
自分の血筋が受けた屈辱に対する恨みだと

- 221 テーベは周辺の民々にとっても嫌われていました
なぜなら彼らといつも非常に敵対していたからです
よく言われるように、悪い親戚は悪い時に待っているものなので
す
同じ事がテーベに起こりました
- 222 土地々の人々は皆王の下へ来ました
皆できる限りテーベを呪いながらやって来たのです
多くの悪行を王に語りました
王は怒っていましたが、彼らはもっと王を掻き立てました
- 223 彼らは多くの裏切りを長々と語りました
多くの悪い女たちや男たちの裏切りを
そのため町全体が焼けこげてしまうべきだったでしょう
そのような悪いぶどうの木からは若芽が出ることがないように
- 224 王はテーベ人に対して非常に怒りました
というのは彼らの悪評が彼を冷酷にしたからです
全臣下が戦いに出ようとしてしました
あたかも皆許しを請いに来たかのように
- 225 すでに外の者が城壁にたどり着こうとしていました
しかし中の者はそれを阻止する術をよく知っていて

非常に多くの石を投げ落とすことができたので
彼らを不本意にも少し立ち往生させました

226 《こんな事は一と王は言いました―何でもない
このウサギはどんな獵犬をからかっているのか知らないのだ
というのは私は自分自身をひ弱で羊の子だと思うだろう
もし私がその皮を剥ぎ取らないとしたら

227 王は非常に頑丈な板で保護壁を作らせ
その下に五百人の騎士がすっぽり入りました
それを三頭の優れた馬が装置を使って引き動かし
その下では石も射手も恐れることはありませんでした

228 テーベ側の意に反して城壁にたどり着き
彼らの所に到達するために城壁の下を掘りました
壁はすでに揺らぎ、倒れそうになりました
テーベはそのようなことにならなければと願いました

229 わずかな時間で壁は倒壊し
彼らは不承不承小門から出て来ようとしてました
ギリシャ人たちは素早く中に入り
行き当たった者達に悪い知らせを伝えました

230 彼らは事が上手く行かないと見ると
皆集まって、野営地に入り
囲い場のひつじのように鳴いていました

王は言いました、《この子羊たちは塩²¹⁾を欲しがっている》

- 231 その事は彼らに他の事をするよりより有利に働きませんでした
 テーベは略奪され、彼らはひどい目にあいました
 ブシファル²²⁾は足下に千人以上を殺しました
 不忠義者の最後はいつもこうなるべきなのです
- 232 上手な吟遊詩人がいて、自分の仕事をよく知っていました
 字がよく読めて、非常に分別のある男で
 ビオラを弾きながら王に会いに来ました
 王は彼を見ると喜んで耳を傾けました
- 233 《ご主人様—と吟遊詩人は王に言いました—あなたは非常に幸運
 なお方です
 神々に似ておられる、それ故、その血筋を引いていらっしゃるま
 す
 全世界があなたの不機嫌を恐れています
 あなたが怒ると、恐ろしい形相をなさいます
- 234 あなたは良き師をお持ちになりました、彼はあなたを良く教える
 術を知っていました
 あなたは良き生徒として彼から良く学びました
 あなたを生むことが出来た母君は幸いでした
 父君は良き息子を誇ることがおできになります
- 235 あなたの中で結びつきます、分別と知識、

努力と気前の良さ、そして非常な礼儀正しさが
あなたの言葉は哲学のようです
創造主があなたの巧みさを導いてくださっているように思われます

236 しかし私が伝える言葉ががあなたを怒らせることのないように
テーベが相応しくないなら、苦しんだのは分かります
テーベは決してこのことを誇らないでしょう
神が私の友たちがそのような過ちを犯さないようお守りくださる
ように

237 しかし王様、あなたは別の考えをせねばなりません
あなたは悪人のためにそのような良い所を破壊すべきではありません
私はあなたにここから出た男たちのことをお話しできると思います
その故にあなたがその土地を許すべきなのです

238 あなたの祖父のアルシデスはここの出です
貴族のディオメデスもアキレスもそうです
このような人物を輩出した町は滅んではいけません
あなたは住民を滅ぼしても、他の物は破壊してはなりません

239 ここでドン・バクス²³⁾は生まれました、幸運な方です
彼はインドを征服し、今日その地で崇められています
そして他の多くの優れた人々も、その消息はあなたをご存知です

彼らのおかげでこの地は常に敬われてきました

240 もし慈悲を乞う者をあなたが滅ぼすのなら
決してあなたは望む事すべてを達成することはできないでしょう
しかしもしあなたが敗れた者達に情をかけるなら
あなたの事業は望み通り導かれるでしょう

241 もしあなた達王で、王国を統べる者達が
お互いに敬意を払わないなら
次のことを確信して、決して他のことを信じてはいけません
あなた達は他の民々にひどく恐れられることになりますよ》

242 吟遊詩人クレオールは詩を歌い終わり、王は彼に満足し
望むだけの金を与えました
しかしテーベの過ちは許そうとせず
隅々まで火を放つように命じました

243 テーベは破壊され、すべて焼かれました
それから王はコリントに戻りました
そこにその人のおかげで町が復興することになったテーベ人がや
って来ました
彼²⁴⁾の三つの跳躍（系の勝利）で、王は褒美として復興を許し
ました

244 王が非常な恐怖を撒き散らしたので
敢えて彼に挑むものはいませんでした

王はすべての戦争とすべての動揺を止め
ギリシャは一人の君主によって治められ始めました

- 245 すべての地を平定すると
食料を積み込んだ船が用意されました
アレクサンダー王は家来衆を集めました
すべて十年分の支払いを十分に受けた者たちです
- 246 彼らは十分な装備を身につけていましたが、数は多くありません
でした
もっとも重要なことは一人一人選ばれたことです
すべて努力することにおいて他に劣らない者たちです
彼らは打ちひしがれたようではなかったことはお知りおきください
- 247 私はあなたたちに船がどれくらいの数だったかお話ししたい
そこから人がどのくらいだったか分かるでしょう
ガルテール²⁵⁾がその詩で言っているように
188 人でした
- 248 あなたたちはもうどんなに王が勇ましかったか分かるでしょう
こんなにわずかな人数で出征するのですから
なぜならダリウス王の力は非常なものだったので
ただ一声で 10 倍は集まったでしょうから
- 249 しかしアレクサンダー王は習わしというものを知っていました

人は数の力で勝利することは決してできないことを
確固たるものを持った少数の方が価値があることを
そして彼らには本来心の堅固さが備わっているのです

- 250 王は水夫たちに船を出すように命じると
彼らは色とりどりの帆を張りました
王は舵手たちに操縦のしかたを命じ
早く漕ぐために多くの漕ぎ手を配しました
- 251 王は忙しく船を走らせようとして
船乗りたちに急ぐように命じていました
王は言いました、《何とお前たちは時間がかかるんだ、私は非常
な損害を受けることになる
なぜなら港で勝利がすでに私を呼んでいるのだから》
- 252 船はすでに陸から離れていました
漕ぎ手たちは櫂を漕いでいました
ギリシャ人たちの心が沈んでいき
そこで泣いていない者はわずかでした
- 253 男たちは船の中で、女たちは港で泣いていました
あたかも各々が自分の夫が死んだかのように
アレクサンダー王は彼らに大きな慰めを与えました
彼らに言いました、《友たちよ、お前たちは私を非常に誤解して
いる

- 254 もし私たちがここから去らなければ、決して平和に生きることは
できないだろう
決して心配や苦悩から逃れられないだろう
私たちがそこで苦勞する三、四ヶ月間で
このような弱さを見せるべきではない
- 255 故郷に喜んで留まることを欲する者は
手柄も立てられず立派なこともできないで
一度ですべて忘れ去られる
もし人が名誉を欲するなら、役に立つ人になるように
- 256 アルシデスがもしスペインに渡らなければ
勇敢であっても、それほど有名にはならなかったろう
バクスがもし故郷を離れなかったら
インドの王国を勝ち得なかったろう
- 257 私たちにはこのことすべてに対して二つの理由がある
一つはダリウス王の王国を私たちが勝ち得ること
もう一つは私たちが苦しみから永遠に解放されること
友たちよ、頑張れ、愉快になれるから
- 258 故郷への思い入れは多くのケチな人間を作り
隣人のひどい拒絶を受けて生きることになる
もしハソンが道を開かなかったら
あんな素晴らしい羊毛²⁶⁾を手に入れることはなかっただろう

- 259 私は良き母と良き二人の妹を残してきている
そして多くの富める町と多くの平野も
しかしペルシャの地が私の心から離れないので
これはすべて何の価値もないものだ
- 260 もしお前たちがかの地にどれだけ良いところがあるかを知ってい
たら
お前たちはこんなに時間がかかって、ヘマをしていることが分か
るだろう
友たちよ、お前たちの意欲でがんばれ
もう少しでお前たちは女みたいだというところだった》
- 261 王は弁が立つわけではなかった
兵士たちの心から苦痛を取り去ることができるほどには
彼らは行程を進めば進むほど心が痛み
どうしても涙を堪えることができなかった
- 262 王とその心のことは大きな事だった
後ろを振り向いたことも、主張を取り下げたこともなかった
故郷にいてもいなくても満足なのだろう
彼は何事においても他の誰にも似ていなかった
- 263 彼らは故郷を離れて以来、心が静まっていき
目から涙を拭くようになりました
そして少しずつ考えを変えていき
アジアに目を向けるようになりました

- 264 船が飛ぶような風が吹いていましたが
王には全然進んでいないように思えました
皆はそんな彼を驚いて眺めていました
しかしそれでもまだ苦悩は忘れていませんでした
- 265 海路の大部分を過ぎていました
しかしまだ港にはだいたいあり
各々は自分の位置についていました
その時アジアの山々が見えてきました
- 266 アレクサンダー王が皆の中で一番先にそれらを見ました
どんな水夫より先に見たのです
王はマストの上に駆け上がりました
それらが波なのか丘なのか見るために
- 267 水夫たちが全員立ち上がり
大急ぎで一番高いマストに登りました
それが本当かどうか確かめたくて
彼らはさらに遠くを見るために帽子をとりました
- 268 すべての船にどよめきが広がっていききました
全員が急いで立ち上がり
少しずつ全員が確かめていききました
そして全員が武器の用意に取りかかりました
- 269 この喜び様がアレクサンダーに気に入りました

1日にこのような喜びを経験した事がなかったからです
直ちに若者全員に船を漕がせると
彼らは大喜びで船を走らせました

270 王は自分が下船できるとは思っていませんでした
船を降りる事ができたら、助かったと思うだろうと言いました
喜びのあまり声をあげ、叫んでいました
非常に満足し、ひどく興奮していました

271 彼らが港に石を投げれば届くぐらいの距離に来ると
王はピンと張った弩を取り
毒を塗った矢を放つと
それはアジアに届きました、幸運に恵まれるように

272 ギリシャ人たちはこの事をとても喜びました
彼らはこれが幸先の良い印だと思いました
彼らのすべての企てがうまく行き
ベルシャに勝って、ダリウス王は打ち負かされるだろうと

273 ある事が起こり、彼らはそれをとても喜びました
人が言うには、その矢で王はカラスを殺したのだと
そのことで皆が言いました、《神が私たちをお助けくださるだろ
う
私たちのことをいつもひどく侮辱してきたダリウス王から》

274 叫び声は非常なものだったので、天まで届きました

天ではその叫び声は神々を怒らせます
ギリシャ人たちは手を叩いて喜び、笑い、飛び跳ねていました
船を足で蹴り、静かに停泊させていませんでした

- 275 錨が砂地に下され
天幕が岸辺に据えられ
彼らは思い々に至る所に腰を下ろしました
自分の屋敷における様に、身を落ち着けたのでしょうか

- 276 事は論理を必要とします
私たちは本題から離れることになります
世界はどの様にして三つに分けられているのか²⁷⁾
そのすべての分け方に海はどの様に関係しているのか

- 277 世界を分けたお方はそれを三つに分けました
三つはすべて海峡によって分けられています
一つは最大で、他の二つはより小さく
最大のものは熱く、他の二つはより冷えています

- 278 半分以上がオリエントに当てられていて
全能の王が幸運によってそれをお創りになりました
他の二つは半分ずつ西洋を占めて
海が真ん中で両者を等しく分けています

- 279 最初のものはアジアという名で呼ばれていて
二番目がヨーロッパ、三番目がアフリカと呼ばれています

ヨーロッパだけがキリスト教で²⁸⁾

他の部分はモーロ人が持っています、とても悔しい事です

- 280 海がどのように横たわっているか考える人は
—あるものは世界を二つに分け、あるものは四つに分けていま
す—

その形自体が十字架になっていることが分かるでしょう
そこから不信心者たちが対立するのです

- 281 他のことは置いておいて、アジアのことを話しましょう
私たちが始めたことに戻りましょう
私たちが読んだことと、聞いたこと
—一番重要なことについてあなたたちにお話しましょう

- 282 アジアはそれ自身に不思議な良さがあります
多くの良い川と山を持っています
パンとワインについては並ぶ所はありません
その地について言われる良いことは素晴らしいものです

- 283 アジアは他の地すべてと同じだけのものを持っています
—小さいものでも標準以上です—
そのことからアレクサンダーは当然考えました
そこを征服すれば、他のすべてを征服したことになる

- 284 アジアはすべての中で一番豊かで、最大です
さらに良い所なので、最高に違いありません

すべての所がアジアを敬い、名誉を与えるべきです
なぜならそこで私たちの贖い主であるキリスト様が生まれたから
です

285 そこから族長たちが出ました、聖なる生活を送った人たちです
また預言者たちも出ました、選ばれた人たちです
そこで聖母の御子の血が流されました
それ故アダムの罪が贖われたのです

286 聖なる全教会はその基礎をそこから取りました
そこから使徒たちが出ました、高潔な人々です
しかし神はヨーロッパを優位に置きました
なぜならローマはすべての秩序の長だからです

287 楽園から四つの聖なる川²⁹⁾が流れ出ています
そこには碧玉やダイヤのような宝石があります
インドは大きな象がいる所です
そこでは二回種を蒔き、二回収穫します

288 高い山コーカサスはその端にあります
一人が言うように、北部にあります—
多くの大河がその麓で生まれています
しかしインダス川はそこにあるどの川より低温です

289 アジアには非常に豊かな地アッシリアがあります
フリギアとパンフィリアも、これらはアッシリアに全然劣ってい

ません

そこには接近の難しい王国であるペルシャとメディアがあります
メソポタミアは忘れられるに値しません

- 290 偉大なバビロニアは全世界と同じだけの価値があります
王国よりも価値があり、帝国です
カルデアは全く同じような地です
そこにはシバとシリアがあり、双方ともに良い所です

- 291 アラビアはそこからキリストに贈り物をもってきた所です³⁰⁾
ヘロデが幼児を虐殺したときに
アルメニアは空に届く高さを誇示していて
そこでノワの方舟が休息した所です

- 292 エジプトはそこからイスラエルの子らが脱出した所で
シナイ山は十戒を授かった所です
彼らは何年も砂漠で過ごし
そこで多くの災難と屈辱を味わいました

- 293 どこよりも良いユダヤの地は
そこでキリストが聖なる教会と結婚したのですが
パレスチナと共に他の地を結びつけなくてはなりません
ユダヤに対して他の地は忠実でなければなりません

- 294 そこにはお話しできないくらい多くの他の地があります
知っていたとしても、決して語り尽くせないでしょう

なぜならそれは膨大な話しで長くなるでしょうから
しかし私たちは日のあるうちに元に戻りましょう

295 王は着いたとき上機嫌でした
彼を導いてくれた神に感謝し
臣下たちを励まし、元気付いていました
自分の事業がうまく行くだろうと言っていました

296 人々は食事を用意し、大掛かりな準備をして
賢人のように計画を立てました
彼らは皆すでに心が決まっていました
各々がどこに村を作るか考えていました

297 彼らには良い兆候があり、良い発見がありました
良い夜を過ごし、安全に眠りました
非常に疲れていたもので、そうすることが必要だったのです
なぜなら海を渡って来た者たちは疲労困憊しているものだからです

298 すでに暁の女神が鍵を用意し
アポロンが馬から首輪を外そうとしていました
アレクサンダーは鳥のさえずりで目を覚ましました
鳥たちは木々の間で優しく歌っていました

299 王は非常に気に入っていたので何も思い出せませんでした
どの地にいるのかさえ心に浮かびませんでした

戦っているダリウス王のことも
他の国に泊まったことも思い出ませんでした

- 300 太陽が昇ったとき、王が海の方を見ると
波が輝き、船が行くのを見ました
王は我に戻り始め
寝台から出て、直ちに武器を身につけに行きました
- 301 すぐに軽快な馬にまたがり
野営地を抜け出し、仲間を呼ぶことはありませんでした
高い山に登りましたが
盾持ちのフェスティノーは彼と一緒にした
- 302 高地の頂上に立つと
すべての地を測り始めました
見渡せば見渡すほど、王は満足して
言いました：《これらの地に私は住みたい》
- 303 王は多くの町が皆しっかり築かれているのを見ました
非常に美しい山々と谷々も
そして皆ちゃんと人が住んでいる多くの岸辺も
それらは皆泉と牧場が備わっていました
- 304 彼にはこんな素晴らしい獲物を見たことがないように思われまし
た
こんな素晴らしい果物も、こんな素晴らしい川も

彼は心の中で言いました：《私の信じるところによれば
わずかの日々にこれが全部私の物になるだろう》

- 305 王は第九時頃³¹⁾ 野営地に帰りました
帰りに獐猛な牝ライオンを一頭殺し
フェスティノーが心臓を槍に刺して持ち帰りました
ギリシャ人達に事が順調にすべりだしたことを示すために
- 306 着くや否や兵士達に言いました
《お前達が喜ぶようなことを知らせたい
ヨーロッパをそのすべての国々と共にお前達に与えよう
なぜなら私はずっともっと良い帝国を見つけてあるのだから
- 307 お前達は私がこのように幸運に恵まれたことを知らねばならない
その良さは終わりも限度もない
それが分からない者はそれを狂気だと思うだろう
ここにいる者は決して苦しみを見ることはないだろう》
- 308 王は非常な自信と硬い意志を持っていたので
人は城も町も彼から守ることができませんでした
臣下達にギリシャを遺産として分け与え
すぐに保証書を作らせました
- 309 王はもっと奇妙な別のことをしました
臣下達に言ったのです：《害を及ぼしてはならない
そうする者は私が怒るのを見るだろうから

なぜなら私はそれを自分のことと思うからだ、これは嘘偽りではない》

- 310 その地の民は、彼がこのようにしたので
どこでも皆が彼に従ったのです
この知恵が彼に大きな利益をもたらしたことを知rinaさい
なぜなら非常に残酷に振る舞ったなら、もっとひどい仕打ちを彼らから受けたでしょうから
- 311 王の親戚の二人の臣下が
—クリトゥスとトロメオという二人の忠実な男なのですが—
王を天幕の外へ連れ出し、
次のような言葉で彼を説得して이었습니다
- 312 彼らは言いました：《王様、あなたには解決しなければならない事
がたくさんあります
軍を指揮して、判断することです
いつ動くべきなのか、どのように野営すべきなのか
王様、あなたは大変な苦痛を背負っています、耐えられなくなりますよ
- 313 あなたの仕事は大変なものです、あなたは多くの事を見なければ
ならない
あなた一人ですべてを成し遂げることはできないでしょう
ひょっとして悪い事が起こるかもしれません
あなたと私たちを窮地に陥れるような

- 314 しかし私たちの判断では、もし良かったら
 私たちはあなたに新しい事を一つしていただきたい
 あなたが最も望む十二人を選んでいただきたい
 私たちに判事と隊長を当てがってください
- 315 そうすればあなたは安全でより苦労が少なくてすみ
 人々は不満を正当に表明できるでしょう
 これが皆の判断であり分別で
 事はすべてより正しく行くでしょう》
- 316 王は言いました：《お前達は私に良い忠告をしてくれたと思う
 本当にお前達は私に良い意見をくれたと認める
 私はお前達が最初の二人になってほしい》
 彼らは言いました：《嬉しいです、王様、あなたがそう命令して
 くださるのですから》
- 317 それから王は寵臣エリエールを呼び
 自分を教育した師アリストテレスを
 他の者と同じ序列としました
 バルメニオンは五番めでした　一彼は難しい時に生まれたもので
 すー
- 318 六番めはエウメニデス、そしてサムソンは七番め
 フェスティノーは八番め、フィロータスは九番めでした
 十番めはニカノル、そしてクリトゥスは十一番めでした
 ベルディカスは十二番めに入れられました

- 319 この者達を王は隊長になるように選びました
もっと素晴らしい人選はできないでしょう
それで人々は後に十二人の重臣と名付けました
ーローマでは同じく十二人の枢機卿がいましたー
- 320 王が事を定めると
十二人重臣を任命し、彼の法を言い渡しました
王は軍を動かし別の駐屯地を手に入れるよう命じました
というのはダリウス王に対して強く出たかったからです
- 321 フリギアの中央に最初に侵入しました
城も町も全然抵抗しませんでした
非常に素早い征服で勝ち取り
ギリシャ軍の士気は上がっていました
- 322 それから不運なトロヤにやって来ました
彼の祖先が破壊したものです
とてつもない労作がすっかり取り壊されたのを見て
このようなすごい出来事に驚いていました
- 323 そこは人影もなく、破壊され焼かれていましたが
人が住んでいた所の土台が見えていました
王はホメロスが全くウソをついていないことが分かりました
彼が言ったことはすべて明らかな事実だったのです
- 324 人々は王に網が張ってあった林を見せました

鷲がガニメデス少年³²⁾をさらった時に少年が張っていたもので
す

鷲は少年を絨毯にのせてジュピターの前に放りました
天の宮廷に知っての通りの名誉を与えたのです

- 325 王は臣下達にトロヤがどのように破壊されたのか
どのようにしてパリスがヘレナをさらったのか³³⁾
どのようにしてディオメデスがヴィーナスに深手を負わせたのか
どのようにして勇敢な矢と言われるエクトルが死んだのかを語り
ました

- 326 王はオデュッセウスがどのようにして奸計を巡らしたのか
どのようにしてアキレスが僧衣を身につけたのか³⁴⁾
どのようにして彼らが十年間包囲の中にいたのか
どのようにしてギリシャ人とトロヤ人が大きな損害を被ったのか
を語りました

- 327 王は一生懸命だったので
ついに木を見つけました
その木の下でオエノネス³⁵⁾が美しい連句を書いたその木です
人の話ではパリスがオエノネスを捨てようとした時に

- 328 王は近くの奥まった所に谷を見つけました
そこでパリスが悪い判決を下したのです
三人の婦人が争いを起こしていたときに
悪魔がくれたリングをめぐって

- 329 王は美しい野原に大きな墓所を見つけました
そこには彼と同郷の人々が葬られていました
各々の上には文字が刻まれていて
その血筋を語っていました
- 330 その中に一つの栄えある墓を見つけました
それは回りがすべて美しい詩で縁取りされていました
それを書いた人は素晴らしい教養のある人でした
なぜならわずかな詩文のなかに多くの内容を盛ってあったからです
- 331 《私はアキレス、この大理石の下に閉じ込められ横たわっている
トロヤ人エクトルを打ち破った私が
裏切り者のパリスが私のかかとを狙って私を殺した
私が疑いもせず、丸腰で横たわっているときに、こっそりと》
- 332 王が墓碑銘を見ると
詩句の二行にはそんなに満足していませんと言いました
アキレスは幸運な男だと思ったのです
彼の武勲のこんなに素晴らしい書き手を持ったのだから
- 333 人々は立派な供え物をして
墓に香をたき、行列をしました
各々が非常に熱心に祈りを捧げました
彼の家系の人々のために

- 334 行列が終わると王が話をしました
臣下たちを喜ばせ、励ますために
トロヤの歴史をその起源から始めました
どのように滅ぼされたのか、そしてどういう理由で
- 335 伝説が伝えるように王と女王が結婚しました³⁶⁾
富んでいたので大々的に式を挙げました
皆が平和の内に争いもなく富を持っていました
ある者は宮廷において、ある者は天幕において
- 336 そこに神々と女神たち
婦人と騎士と公爵と公爵婦人たち
多くの王と伯爵、女王と伯爵婦人たちが呼ばれました
そこには女の旅芸人だけの大集団がいました
- 337 多くのグループと多くの無用の人々がいました
旅芸人たち、皆様々な種類の人たちがいました
さらにもっと探すために人々は通りに出て行きました
というのは鍋を食べ尽くすことができなかったからです
- 338 当然のことながら、各々は同輩と席についていました
このように人々は席について停まっていました
その婚礼は一月続き
そこでは決して不和も悪い事も聞かれませんでした
- 339 狂気の悪魔は常に

その平和に嫌悪を感じ
不和の種をまくことができるかどうか
その集まりの中に何か争いを起こすことができるかどうか
考えていました

- 340 偶然三人の女神が一つのテーブルについていました
名をビーナス、パラス、そしてユーノといい³⁷⁾
皆有力で、一つの血筋でした
誰もそんな豪勢なテーブルを見た者はありませんでした

- 341 いつも悪さを企む悪魔は
とてつもなく美しいリングを探してきて
それに悪い事を書き入れ
おお、神よ、それを非常に折悪しく彼女たちの中に投げ入れたの
です

- 342 これがその文です、一本当です—
《お前たちの中で一番美しい者がこのリングを取るように》
彼女たちはこの由々しき事態を見ると
各々それを得ようと必死になりました

- 343 ユーノが言いました：《それは私がもらうべきよ》
パラスが答えて言いました：《そんな事信じられない》
《本当に—とビーナスが言いました—そんな事ありえない
だって私が一番美しくて、それは私がもらうべきなのだから》

- 344 女神たちの間に口論と争いが起こりました
誰も彼女たちに折り合いをつけることはできませんでした
彼女たちは最後に合意に達し、お互い従うことになり
トロヤのパリスが判定を下すことになりました
- 345 合意がなったことを神が喜ぶと
彼女たちは判定を受けにパリスの前に来ました
各々の言い分が聞かれました
女神たちは恐ろしい法律家のようでした
- 346 あなたたちにパリスのことをちょっと話しておきたいと思います
それであなたたちは信じ、断言できます
神がどうあるべきか命じることは
どうしても避けられないということを
- 347 プリアモがトロヤの町の王でした
一人の言うところによれば大きな領地でした—
彼の妻はヘクバで、非常に善良な女で
二人とも本当にとても良い人たちでした
- 348 女王ヘクバはパリスを身ごもりました
彼女は出産する前に恐ろしい夢を見ました
怒れる炎が彼女の体から出て
トロヤを全部焼き尽くしてしまったのです
- 349 ヘクバは驚いて夢から覚めると

自分が火から逃れたとは思いませんでした
朝の光が覗くとすぐ
王プリアモにどんな夜を過ごしたのか話しました

- 350 王が夢の話を聞くと
全身の血を失い、呆然としました
非常に悪い印が現れたと思い
言いました：《神がお決めになった通りになるように》
- 351 王は神に両手を上げて願いました
《王様、父上、ご主人様—と言いました—お慈悲をお示しください
い
もしこの地が減ぼされるのなら
先に私を殺してくださいますように、十分生きましたから
- 352 女王よ、お願いだから願いを叶えておくれ
そなたから何が生まれようと、すぐに殺しておくれ
運良くその火を消すことができるだろう
もしそなたが私のこの願いを叶えてくれるなら
- 353 一人の子を失うくらい不幸中の幸いだろう
そなたの生涯がそんな大きな危険にさらされるよりは
女王は答えました：《王様、良くお知りおきください
私はあなたのお命じになることには喜んで従います》
- 354 出産の時がくると

ヘクバは心配になり死のうと思いました
産婆たちに自分を手伝うように命じました
どんな子が生まれてしようと生かしておいてはいけないと

- 355 罪と不運により生まれました
とてもかわいい、りりしい子が
産婆たちはそのあまりの美しさにその子を盗み
ヘクバにはウソを言いました：神が彼女たちに苦しみを与
えますように

- 356 以前あなたたちに言ったように、神が準備したことを
人間の判断で妨げることはできませんでした
彼女たちはヘクバにウソをつき、その命令に背いて
赤子を家畜の番をしている羊飼いたちに渡しました

- 357 彼らは溺愛し、赤子はすぐに大きくなって
歩けるようになるとすぐに町にやって来ました
その生まれるべきではなかった子は非常に美しかったので
人々はとても驚きました

- 358 その子は勇敢で、とても物知りでした
また礼儀正しく、非常に粹でした
世の中に王も皇帝もいません
こんな息子をもって、自分は最高だと思わないような

- 359 すぐに秘密が全部知れ渡りました

王は息子が心から気に入り
その子に財産と領地を継がせることにして
さらにふさわしい名前に変えました

- 360 最初は人々は彼をアレクサンダーと呼んでいました
しかし父王が名前を変えることにして
あなたたちが聞いたことがあるように、パリスという名をつけま
した
というのは他の息子たちと等しく、同等に扱ったのです³⁸⁾

- 361 話術を学んで、彼は話は非常に筋が通っていました
そして武器を取っては、とても勇敢でした
完璧な男に見えたので
先の女神たちは彼を判定人に選んだのでした

- 362 女神たちがパリスの前に来ると、自分たちの言い分を述べました
彼女たちはあたかも男のように確言し
女であっても強硬な申し立てをしました
彼女たちの結び文句は素晴らしいものでした

- 363 ユーノがまず初めに話し始めました
—人々は彼女が女王だったので優先権を与えました—
彼女は腕利きの弁護士のように論拠を述べ始めました
他の女神たちをリードしようとしたのです

- 364 彼女は非常に素晴らしかったので女王らしく見えました

頭にはとても美しい冠をつけて
 あたりには多くの宝石が輝いていました
 彼女は完璧な女として申し立てを始めました

- 365 《聞きなさい—と彼女は言いました—パリスよ、私がそなたに何を言いたいのか
 私はそなたの前に出ることになったとき嬉しかった
 というのは私はそなたが正しく裁くことを愛するということをよく知っているからです
 そして判断を誤ることを好まないということも知っているからです》

- 366 私は大皇帝の妻であり姉妹です³⁹⁾
 諸王の主人であるジュピターのです
 もし彼がもっと美しくより良い人を見つけていたら
 私を妻には選ばなかったでしょう

- 367 私の美しさについては長々と話したくありません
 目に見えることには証明は要りません
 私の美しさは多くの男たちを苦しませたし、苦しめています
 このことについては命じられれば多くの証人を立てることができます

- 368 孔雀の尾羽はとても美しいので
 私に関連づけられたのです、まさにその理由で
 このことはオビディウスの書いた本にあります

私は全く正当にそのリングをもらうべきです

- 369 これが正しいと認めるなら
 そなたは的を射ており、そのことで利益を得るでしょう
 そなたは決して貧しくならないし、ひどい目に会うこともないでしょう
 しかしもしそうしなければ、私の恨みを買うことになるでしょう》
- 370 女神ユーノがその申し立てを終えると
 剣を帯びたパラスが立ち上がりました
 《聞いておくれ、パリスーと彼女は言いました—私の言い分を述べましょう
 ユーノは十分に語りました、今度は聞く番です
- 371 彼女は自分でいうように高貴な血筋の出です
 私もまた同じ血統です
 私は他の二人の女神より目も鼻も美しい
 確かに私はどんな女帝よりも劣ってはいません
- 372 私は足が早いし、乗馬も上手です
 私は武器の扱いもよく知っていて、弩も引けます
 私が山を駆けてあるいは、狩りから戻ってくると
 これらの女神は私の前には立てないでしょう
- 373 私はプロセルピーナと呼ばれ、フォエブス⁴⁰⁾の姉妹です

これ以外に私は二つの名前を持っています、ミネルバとディアナ
です

私は夜を照らし、朝を連れて来ます

このことだけでも私がリングを手に入れるべきです

374 まだそなたが考えなければならない別の事があります

そなたは馬術では勝つと評価されています

そして私はそなたを導く教師です

それでそなたは今日からずっと私に負い目を感じることになる

375 まだこの事以外にそなたに言いたい事があります

もし今回そなたのために私が負ける事になったら

パリスよ、そなたはひどく後悔することになりますよ

聞く耳をもっていたら聞きなさい》

376 ビーナスはすぐに飛び上がって部屋から出て

論争の只中でパリスの前に立ちました

その言い争いでそれ以上美しい人はいませんでした

血筋に関しては、皆同じ出でした

377 その女神は高貴で、美しい体形をしており

手練手管についてはよく教え込まれていました

他の二人より筋が通っていて

美しさに関してはどちらにも全然負けていませんでした

378 他の女神たちが対抗できないこと示すために

目と眉を塗り
 白と朱で身を覆い
 両耳に金の輪をつけました

- 379 話すときには、顔を見せて
 パリスの方を見て目くばせを始めました
 彼女は言いました：《パリスよ、もし正しい判断をしたいなら
 すでにそなたは見て誰がリングを獲得するか分かっているはずで
 す
- 380 私たちは同じ血筋の者です、その事については彼女たちが話しま
 した
 それに関しては彼女たちは全然ウソはつきませんでした
 しかし他の事におけるように、差し支えない範囲で言ったのです
 そなたに与えると約束したものについてはウソをつきました
- 381 私は海の波の中で生まれました
 ジュピターがその父に打撃を加えたときにです⁴¹⁾
 私には他に母はいませんでした、それ故私は汚れていません
 私を手に入れたとき、軍神マルスは豊かになったと思いました
- 382 判定に関しては、そなたは偽りを言わないだろうことを知ってい
 ます
 しかし私はそなたが得るであろう利益のことを言いたい
 もしそなたが、パリスよ、そのリングを私にくれれば
 そなたは私から永遠に享受できる贈り物を得るでしょう

- 383 そなたに富を約束する者はそなたに愛情を全然抱いていない
なぜならそなたは創造主のおかげで十分に持っているのだから
それに馬術ではエクトルはそなた程ではない
そこでパラスは欺しているように思えます
- 384 そなたが不足していないことについて、彼女たちは多くを約束し
ています
そなたを欺くためにだけそうしているのです
自分たちに反することは何でも恐れます
もしそなたがそのことをよく理解すれば、彼女たちはそなたを嘲笑するでしょう
- 385 そなたのためになること、そこからそなたが出世すること
王の息子として常に求めなければならないもの
それを奪うも与えるもすべて私の手の内にあります
なぜなら私によらなければそなたはちゃんと結婚できませんよ
- 386 私がそなたの望む女と結婚させてあげましょう
未婚だろうと既婚だろうと望みの女と
そなたが私を裏切らなければ、私もそなたを裏切りはしないでしょう
これに対してパリスは言いました：《私はあなたがリングをもらうべきだと判定します》
- 387 ビーナスは賞品を手にし、他の二人は恨みを抱き
全身全霊でパリスに挑みました

彼を気の触れた不正義者と判断し
あらゆる不運に見舞われるべきだと思いました

- 388 パリスはある有名な婦人の話を聞いたことがありました
メネラウスの妻で、不幸な星の下に生まれました
彼女の美しさは世界中でひょうばんでした
パリスは褒美としてビーナスに彼女を求めました
- 389 ビーナスはパリスに言いました：《大変なことを要求しましたね
そなたが求める女はかつて拐われたことがあるのです
それを恐れて今はかくまわれているのです
しかし知ってほしいのですが世界にあれほど美しい人を私は知り
ません
- 390 しかしそなたの求めることを私は果さなければなりません
私は何事もそなたに逆らうことはできません
私たちがそれを達成するのが難しいかもしれません
しかしどうにかして彼女にたどり着かねばならないでしょう
- 391 私はそなたにどうしたら良いのか示しましょう
すべきことを用意するように
貴重品と財産を用意することを考えなさい
そして船に乗って彼女に会いに行きなさい
- 392 名前を変えて商人として行きなさい
誰もそなたが騎士だと気付かないように

君主メネラウスはそんなに抜け目のない人物ではないでしょう
そなたを穀物倉庫に入らせないほどには

- 393 宮廷では少しずつ知られるようにしなさい
子供も大人も皆を喜ばせなさい
とにかく王妃に会えるようにすることです
私が彼女がそなたを愛するように彼女の心を仕向けましょう
- 394 お金持ちとしてそなたの財産を分けてあげなさい
そうすれば王妃から何らかの個人的な慰めを得るでしょう
そなたは外見が良く、言うことに筋が通っているので
どうにかして願いを叶えることができるでしょう
- 395 しかし王妃にはそなたの秘密を話さない
彼女にはそなたの望みをすべてよく理解させなさい
女は弱く、貞節を忘れます
そなたに同情して、情けをかけてくれるでしょう
- 396 私は彼女に助言をし、私の薬を与えましょう
他の王妃たちによく与えるやつです
私たちは皆隣人同士なので理解し合っています
私は彼女がそなたをカーテンの下に迎え入れたくなると思います
よ》
- 397 パリスは王妃を手に入れたいと熱望し
直ちに船の乗り、海を渡りました

ギリシャに着くまで休息することはありませんでした
彼の評判は王妃の下に届こうとしていました

398 スパルタ王は彼を大歓迎で迎えることになりました
どの城門でも彼を引き止めないように命じました
王妃はすべてを知ることになりましたが
結局彼を大喜びで迎え入れました

399 王は馬で遠征に行くことになりました
商人に扮したパリスは後戻りして
大騒ぎを起して宮廷を襲い
王妃を手に入れ、トロヤに帰りました

注

- 19) 「キリスト教化した」の意
- 20) キリスト教で罪の償いの免除のことで、ここでも意図的に時代が混同されている
- 21) 死後食料として塩漬けにされるため
- 22) アレクサンダーの愛馬、14) 参照
- 23) バッカス神のこと
- 24) コリント海峡で開催される競技会で（跳躍系の）三部門で勝利者となったテベ人選手クリトマコスのこと
- 25) Gautier de Chatillon のこと
- 26) ギリシャ神話に出てくる秘宝である翼を持つ金色の羊の毛をイアーソン（ハソン）が取りに行く話
- 27) 当時の世界観でヨーロッパ、アフリカ、アジア
- 28) これが書かれた後世（13世紀）から見た話である
- 29) 旧約聖書創世記2：10-14
- 30) los Reyes Magos（東方の三博士）のことを指している
- 31) 7) 参照、現在の昼過ぎから夕方頃
- 32) 美少年でジュピターにさらわれ、鷲の姿に変えられ、オリンポに連れて行かれて神々の宴会の

酌人として仕えた

- 33) パリスがスバルタの王メネラウスの妻ヘレナを奪ったことがトロヤ戦争の原因となった
- 34) 戦いで死ぬことがないように母によって女子修道院に隠される、ここでも時代が錯綜している
- 35) パリスの最初の妻
- 36) ベレオとテティス
- 37) パラスはアテナの別名で、ユーノはジュピターの妻でギリシャ神話のヘラ
- 38) ラテン語の par (等しい) との掛詞であろうと言われている
- 39) ギリシャ・ローマ神話では近親婚はよくあること
- 40) アポロのこと
- 41) 別のエピソード (サトゥルノとウラーノの話) と混同されている

参考図書・辞書

Libro de Alexandre Real Academia Española Madrid 2014

Libro de Alejandro Editorial Castalia Madrid 1985

Book of Alexander Peter Such and Richard Rabone Oxbow Books Oxford 2009

Vocabulario de Libro de Alexandre Anejos del Boletín de la Real Academia Española Madrid 1976

アレクサンドロスの書・アポロニオの書 橋本一郎 大学書林 1991

Diccionario Medieval Español Martín Alonso Universidad Pontificia de Salamanca 1986

Diccionario de Castellano Antiguo Manuel Gutiérrez Tuñón Editorial Alfospolis 2002

Tentative Dictionary of Medieval Spanish Lloyd A.Kasten and Florian The Hispanic Seminary of
Medieval Studies New York 2001